

文化情報

会報 Vol.403

令和7年4月1日発行

SINCE 1961

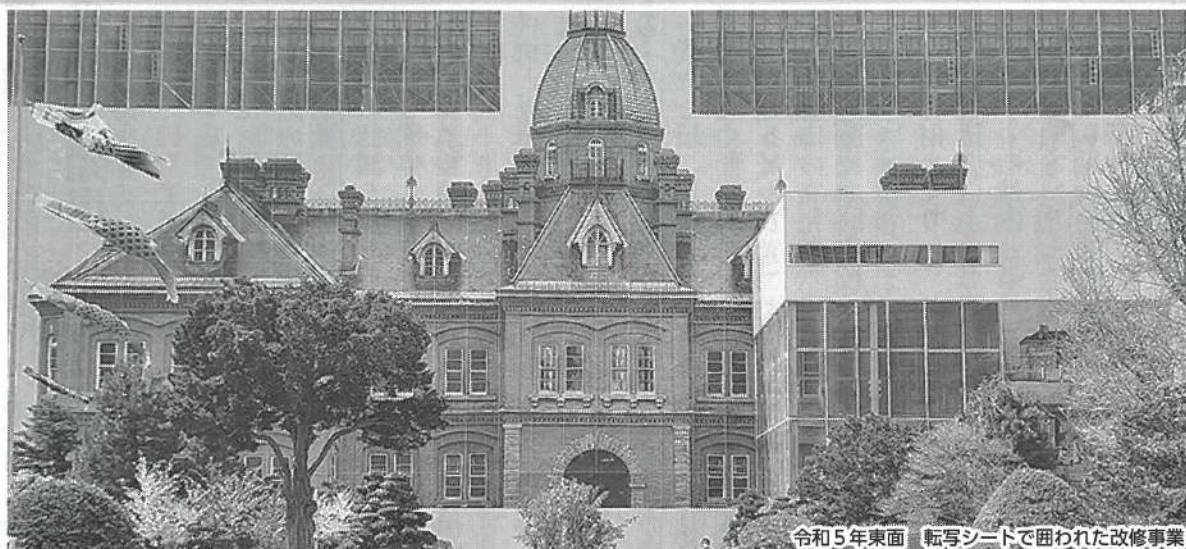
一般財団法人

北海道文化財保護協会

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7ビル9階 電話・FAX:011-271-4220

Website: <https://hokkaido-bunkazai.jp>

E-mail: bunho@abelia.ocn.ne.jp



北海道庁旧本庁舎 赤れんが庁舎 令和の改修



令和6年8月 八角塔取付け



令和4年8月 八角塔取外し

令和の改修工事は、昭和43年の復原改修工事を基にして外観を明治21年に、内部を明治44年に遡って復元的検討を行い、史跡遺構を保護して行われた。国重要文化財では初の設計施工一括方式（デザインビルド）方式を採用し、煉瓦壁の構造補強は日本建築センターの耐震診断評定を受けた。平成24年度から14年に及んだ改修事業は、指定管理者も選定され、内部展示を残し、7月25日の開館で終了する。改修工事は契約時の約41億円に物価上昇分が上乗せされる。保存修理工事・リニューアル化工事・バリアフリー工事・耐震工事・素屋根工事・仮設見学者施設工事において、屋根の天然スレートと銅板の葺替え・メタルシーリングの張替え、煉瓦壁の175本のPC鋼棒の補強工法による耐震補強、鉄骨補強による換気塔・煙突の落下防止、八角塔の鋼板耐震壁補強・内部階段設置、小屋裏のスプリンクラー設置、地階から2階までのエレベータ設置と南側の地階のスロープ設置が主な工事であった。北面・東面・南面の外観転写シート、仮設見学者施設内の八角塔の銅板葺替え、八角塔の取外しと取付けは話題となった。

創建当時に西面にあった石炭庫跡や八角塔への直通階段跡が確認され、明治42年火災時の遺物として溶融したシャンデリア、棟飾りの一部、建築金物、刻印のある煉瓦などが出土した。1階天井内部の防火スラブ（波板鉄板とシリンダーコンクリート）は残存させ、内窓となる戸袋に三枚折れ戸は収納したままにし、メタルシーリングはオーストラリアのメーカーに製作させ、天然スレートは昭和58年の葺替材である雄勝材を再利用し不足分をカナダの輸入材と雄勝産を充てた。（札幌市立大学名誉教授、北海道赤れんが庁舎 改修事業整備等専門会議座長・展示等整備有識者懇談会委員 羽深久夫）